

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容				
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
307	98.19	98.92	硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟質化する部分もある。	98.05	98.92	硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟質化する部分もある。	98.05	98.92	98.05～98.92m: 硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目ぞいに軟質化する部分もある。	-		
308	-	-	-	98.20	98.20	50° 割れ目に幅3～5mmの褐色粘土を挟む。	98.20	98.20	98.20m: 50° の割れ目に幅3～5mmの褐色粘土を挟む。	-		
309	90.92	99.50	硬さ「D」主体。全体に軟化しているが風化、変質は弱い。	98.92	99.50	硬さ「D」主体。全体に軟質化しているが、風化、変質は弱い。	98.92	99.50	98.92～99.50m: 硬さ「D」主体。全体に軟質化するが、風化、変質は弱い。	-		
310	99.50	99.56	(変質欄)4ランク	99.50	99.56	(変質欄)3ランク	99.50	99.56	(変質欄)3ランク	-		
311	99.50	99.68	(岩級区分欄)D	99.50	99.68	(岩級区分欄)CL	99.50	99.68	(岩級区分欄)CLに含める	-		
312	99.50	99.68	破砕帯(主せん断面99.56m)	99.50	99.68	破砕帯(最新活動面は99.53mか99.56mの可能性はある)			●99.50～99.68m: 破砕帯 99.50～99.56m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端43° で直線的に、下端38° で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目と、これに直交～60° 斜交する割れ目で径5～10mmの硬さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に幅1～3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56～99.57m: 砂混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜38° で上下端とも波打って連続。径1～3mmの一部マンガン鉱染で黒化した石英粒を10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質。灰白色を呈する。幅5～10mm。 99.57～99.68m: 砂混じり岩片状部(Hj) 上端38° で波打って、下端37° で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交～60° 斜交する割れ目が多く、径5～20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色を呈する。幅85mm。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
313	99.50	99.56	Hj 上端43° で直線的に、下端38° で波打って連続。主せん断面とほぼ平行な数条の割れ目とこれに直交～60° 斜交する割れ目で径5～10mm/m硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1～3mm/m白色軟質粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。色調は明黄褐色(10YR6/6)。厚さ45mm/m	99.50	99.56	Hj 上端43° で直線的に、下端38° で波打って連続。上端とほぼ平行な割れ目数条と、これに直交～60° 斜交する割れ目で径5～10mm硬さ「E」の岩片に細片化。岩片間に幅1～3mm白色軟質粘土が脈状に分布し「粘土混じり岩片状」を呈する。一部にマンガン鉱染伴う。やや軟質。細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。色調は明黄褐色(10YR6/6)。厚さ45mm 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。	99.50	99.68	●99.50～99.68m: 破砕帯 99.50～99.56m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端43° で直線的に、下端38° で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目と、これに直交～60° 斜交する割れ目で径5～10mmの硬さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に幅1～3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56～99.57m: 砂混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜38° で上下端とも波打って連続。径1～3mmの一部マンガン鉱染で黒化した石英粒を10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質。灰白色を呈する。幅5～10mm。 99.57～99.68m: 砂混じり岩片状部(Hj) 上端38° で波打って、下端37° で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交～60° 斜交する割れ目が多く、径5～20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色を呈する。幅85mm。			
314	99.56	99.57	Hc-2 38° で上下端とも波打って連続。φ1～3m/mの一部マンガン鉱染で黒化した石英粒10%程度含む半固結状粘土(ガウジ)。色調は灰白(7.5YR8/2)。厚さ5～10m/m	99.56	99.57	Hc-2 38° で上下端とも波打って連続。φ1～3mmの一部マンガン鉱染で黒化した石英粒10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質な凝り粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)。厚さ5～10mm。 変質を受けて、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	99.50	99.68	99.50～99.68m: 破砕帯 99.50～99.56m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端43° で直線的に、下端38° で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目と、これに直交～60° 斜交する割れ目で径5～10mmの硬さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に幅1～3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56～99.57m: 砂混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜38° で上下端とも波打って連続。径1～3mmの一部マンガン鉱染で黒化した石英粒を10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質。灰白色を呈する。幅5～10mm。 99.57～99.68m: 砂混じり岩片状部(Hj) 上端38° で波打って、下端37° で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交～60° 斜交する割れ目が多く、径5～20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色を呈する。幅85mm。			
315	99.57	99.68	Hj 上端45° で波打って、下端37° で直線的に連続。主せん断面と平行な数条の割れ目とこれに直交～60° 斜交する割れ目が多く、径5～20m/mlに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部を挟む「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染のため黒っぽい色調の褐灰(10YR4/3)で厚さ85m/m	99.57	99.68	Hj 上端38° で波打って、下端37° で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交～60° 斜交する割れ目が多く、径5～20mmに岩片化。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部を挟む「砂混じり岩片状」を呈し、マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色(10YR4/3)を呈する。厚さ85mm。硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	99.50	99.68	99.50～99.68m: 破砕帯 99.50～99.56m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端43° で直線的に、下端38° で波打って連続。上端とほぼ平行な数条の割れ目と、これに直交～60° 斜交する割れ目で径5～10mmの硬さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に幅1～3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.53mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56～99.57m: 砂混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜38° で上下端とも波打って連続。径1～3mmの一部マンガン鉱染で黒化した石英粒を10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟んでいる。やや硬質。灰白色を呈する。幅5～10mm。 99.57～99.68m: 砂混じり岩片状部(Hj) 上端38° で波打って、下端37° で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数条の割れ目とこれに直交～60° 斜交する割れ目が多く、径5～20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐灰色を呈する。幅85mm。			
316	99.68	101.78	CL 上下端側は硬さ「D」、中央部は硬さ「C」主体。下端側の101.45m以深は風化、変質がやや進み硬さ「D」と軟化。	99.68	100.50	CL 硬さ「D」主体。	99.68	100.50	99.68～100.50m: CL 硬さ「D」主体。	-		
317	100.00	101.00	密着度が低い割れ目～ゆる割れ目を多く含む。すでに開口割れ目化するものもある。	-	-	-	100.00	101.00	100.00～101.00m: 密着度が低い割れ目～ゆる割れ目を多く含む。開口割れ目化するものもある。	-		
318	100.50	101.45	(岩級区分欄)CL	100.50	101.45	(岩級区分欄)CM	100.50	101.45	(岩級区分欄)CM	-		

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
330	-	-	106.00	106.16	106.00m, 106.16mに73°の割れ目が分布し、前者には幅2~5mmの砂を挟み、マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。	106.00	106.16	106.00m, 106.16m: 73°の割れ目が分布し、前者には幅2~5mmの砂を挟み、マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。			
331	106.32	106.60	106.32	106.60	潜割れ目が約10mm間隔で密に分布。全体が軟質化する。 一部の潜割れ目は密着度が低い。	106.32	106.60	106.32~106.60m: 潜割れ目が約10mm間隔で密に分布し、全体が軟質化する。 一部の潜割れ目は密着度が低い。			
332	107.30	-	107.30	-	107.30m以深ではφ2~3mmの緑泥石と推定される暗緑灰色斑点が点在する。 また、割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。	107.30	-	107.30m以深ではφ2~3mmの緑泥石の暗緑灰色斑点が点在する。割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。			
333	107.60	108.60	107.60	108.60	φ5~10mmと大型のカリ長石斑晶を多く含む。	107.60	108.60	107.60~108.60m: 径5~10mmの大型のカリ長石の斑晶を多く含む。			
334	108.68	108.71	108.68	108.71	割れ目ぞいに細片化する。	108.68	108.71	108.68~108.71m: 割れ目ぞいに細片化する。			
335	108.71	112.27	108.71	112.27	OM 堅硬・塊状 白い筋状の仲割れ目を多く含むが大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目ぞいはいはごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。	108.71	112.27	OM 堅硬・塊状 白い筋状の仲割れ目を多く含むが、大半が周囲と同化し、密着度が高くなっている。ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物は分布しない。 割れ目ぞいはいはごく薄く風化で褐色化するが劣化しない。			
336	108.71	112.27	108.71	112.27	(コアの形状) IIIランク (岩級区分欄) CH	108.71	112.27	(コアの形状) IVランク (岩級区分欄) CM			
337	110.30	110.95	110.11	110.95	50~60°とこれに直交~斜交する10~30°の割れ目や仲割れ目が多い。仲割れ目は密着度が高い。 両者割れ目は後者割れ目の一部を切っている。	110.11	110.95	110.11~110.95m: 50~60°とこれに直交~斜交する10~30°の割れ目や仲割れ目が多い。仲割れ目は密着度が高い。前者の割れ目は後者の割れ目の一部を止めており、一部は後者の割れ目と横断している。 切っている。 50~60°の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
338	111.14	111.14	111.14	111.14	76°割れ目に厚さ1~2mm/緑泥石粘土~シルトをはさむ。 φ0.1mmの微小なセリサイトも点在する。	111.14	111.14	111.14m: 76°の割れ目に幅1~2mmの緑泥石粘土~シルトを挟む。径0.1mmの微小なセリサイトも点在する。			
339	111.31	111.34	111.31	111.34	割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。	111.31	111.34	111.31~111.34m: 割れ目ぞいに薄く風化・褐色化する。			
340	112.00	112.27	112.00	112.27	70~80°とこれに直交する20~30°の仲割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。	112.00	112.27	112.00~112.27m: 70~80°とこれに直交する20~30°の仲割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。			
341	112.27	113.27	112.27	113.27	CM 堅硬であるが上下位に比べ割れ目がやや多くなる。仲割れ目も多いが、上端の112.27~112.32mを除き密着度は高い。 割れ目には挟雑物は分布せず、その面も未風化・新鮮なものが主体である。 一部の割れ目で緑泥石が厚さ1mm程度砂状~シルト状を呈する。	112.27	113.27	112.27~113.27m: CM 堅硬であるが、上下位に比べ割れ目がやや多くなる。仲割れ目も多く、112.27~112.32mを除き、密着度は高い。割れ目には挟在物は分布せず、面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が幅1mm程度で砂状~シルト状を呈する。			

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を半書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			
366	119.11	119.25	破砕帯(主せん断面119.18m) アブライト(Ap)貫入部の破砕帯	破砕帯(最新活動面119.18m) アブライト(Ap)貫入部の破砕帯			●119.11~119.25m:破砕帯 119.11~119.16m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。にぶい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.18m:粘土状部(Hc-1) 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とはほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。
367	119.11	119.16	Hj 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5~10mm角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、1~3mm/mで緑灰色のいずれも軟弱粘土をはさみ「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰(10G4/1)、厚さ30mm/m	Hj 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。φ5~10mm角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟み「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/4)~暗緑灰色(10G4/1)、厚さ30mm やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
368	119.16	119.18	Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1mm/m石英をわずかに含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は緑灰(10G5/1)、厚さ7~10mm/m	Hc-1 60°で上端波打ち、下端は直線的に連続。φ1mm石英をわずかに含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰色(10G5/1)、厚さ7~10mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	119.11	119.25	
369	119.18	119.25	Hj 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。主せん断面とほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5mmに細片化。岩片間の一部は幅1mm緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰(10G4/1)、厚さ40mm/m	Hj 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とはほぼ平行~これと斜交する割れ目でφ2~5mmに細片化。岩片間の一部は幅1mm緑灰色粘土細脈が多く分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰(10G4/1)、厚さ40mm やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			
370	119.11	119.25	(岩級区分欄)D	(岩級区分欄)CL	119.11	119.25	(岩級区分欄)CLに含める
371	119.25	120.10	CL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2mm/mの緑灰色・緑泥石粘土脈をはさむ。 下端の120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。	OL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留。 割れ目の一部に厚さ2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。 下端の120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化進む。	119.25	120.10	119.25~120.10m:CL 風化で全体が軟化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留する。割れ目の一部に幅2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。120.02~120.09mは割れ目ぞいに砂状化が進む。
372	120.09	120.10	60°、厚さ10~15mm/m緑泥石脈で軟化している。	60°、厚さ10~15mm/m緑泥石化で軟質化している。	120.09	120.10	120.09~120.10m:60°で幅10~15mmの緑泥石化で軟質化する。
373	120.10	125.90	CH 堅硬、塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮。長石の白濁化は殆んど認められない。	CH 堅硬、塊状。 割れ目挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮。長石の白濁化は殆んど認められない。	120.10	125.90	120.10~125.90m:CH 堅硬、塊状。割れ目に挟在物は分布せず、面もほぼ未風化・新鮮である。長石の白濁化は殆んど認められない。
374	121.60	121.60	ゆ着割れ目が開口割れ目化している。	-			121.60m:ゆ着割れ目が開口割れ目化する。
375	122.36	122.36	65°割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出。	-			122.36m:65°の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。
376	122.61	122.61	60°割れ目厚2mm/mの褐色砂はさむ。	60°割れ目に幅2mmの褐色砂挟む。	122.61	122.61	122.61m:60°の割れ目に幅2mmの褐色砂を挟む。
377	-	-	-	80~90°の割れ目が連続する。	123.35	125.06	123.35~125.06m:80~90°の割れ目が連続する。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
378	123.63	123.67	割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	123.63	123.67	割れ目ぞいに片状化するが岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	123.63	123.67	123.63～123.67m: 割れ目ぞいに片状化するが、岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	-
379	125.00	-	125.00m以深はゆ着割れ目は殆んど分布しない。	-	-	-	125.00	-	125.00m以深はゆ着割れ目は殆んど分布しない。	-
380	125.90	128.05	CM 堅硬であるがゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物ははさまず、ほぼ未風化で新鮮。ほぼ全区間に亘り60～90°のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。	125.90	128.05	CM 堅硬であるがゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。 割れ目は挟在物は挟まず、ほぼ未風化で新鮮。ほぼ全区間にわたり、60～90°のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し、一部ではその周辺が片状化していることが多い。	125.90	128.05	125.90～128.05m: CM 堅硬であるが、ゆ着割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目に挟在物は挟まず、ほぼ未風化で新鮮である。ほぼ全区間にわたり、60～90°のゆ着割れ目ぞいに割れ目化し、一部はその周辺が片状化する。	-
381	127.15	127.58	80～90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10m/m間隔で平行に分布。全幅約50m/mに亘り片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	127.15	127.58	80～90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布。全幅約50mmにわたり片状化するが砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	127.15	127.58	127.15～127.58m: 80～90°の開口化したゆ着割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布する。全幅約50mmにわたり片状化するが、砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。	-
382	128.05	128.78	CH 堅硬。 128.05～129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80～90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。	128.05	128.78	CM 堅硬。 128.05～129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80～90°割れ目が波打ちながら連続するが一部を除き片状化は認められない。	128.05	128.78	128.05～128.78m: CM 堅硬。128.05～129.00mにゆ着割れ目が開口割れ目化した80～90°の割れ目が波打ちながら連続するが、一部を除き片状化は認められない。	-
383	128.05	128.78	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	128.05	128.78	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	128.05	128.78	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	-
384	128.78	128.78	33°割れ目に砂、φ2～3m/m細片化岩片を厚さ1～4m/mはさむ。	128.78	128.78	33°割れ目に砂、φ2～3mm細片化岩片を厚さ1～4mm挟む。	128.78	128.78	128.78m: 33°の割れ目に砂や径2～3mmの細片化岩片を幅1～4mmで挟む。	-
385	128.78	129.47	CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打で分離しない。割れ目挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-	128.78	129.47	128.78～129.47m: CM 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、大半は密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	-
386	129.47	129.84	CL 密着度の低いゆ着割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	129.47	129.84	CL 密着度の低い潜在割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	129.47	129.84	129.47～129.84m: CL 密着度の低い潜在割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	-
387	129.84	129.91	(岩級区分欄)D	129.84	129.91	(岩級区分欄)CL	129.84	129.91	(岩級区分欄)CLに含める	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
388	129.84	129.91	破砕帯(主せん断面129.84m)	129.84	129.91	破砕部(最新活動面129.84m)			●129.84~129.91m:破砕部 129.84~129.85m:粘土状部(Hc-2) 傾斜70°で上端は直線的に、下端は波打って断続的。径1~3mmの石英粒。径2~3mmの岩片を10~20%含む。軟質。緑灰色を呈する。幅2~5mm。一方、上端には暗緑灰色の幅0.5mmのフィルム状粘土を挟む。 129.85~129.91m:粘土質岩片状部(Hj) 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。径2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。色調はオリーブ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35mm。	-硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
389	129.84	129.85	Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って連続。φ1~3m/m石英粒。φ2~3m/m岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰色(10G5/1)。厚さ2~5m/mで一部厚さ0.5m/mのフィルム状部分もある。	129.84	129.85	Hc-2 70°で上端直線的、下端は波打って断続的。φ1~3mm石英粒。φ2~3mm岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は緑灰色(10G5/1)。厚さ2~5mm。一方、上端には厚さ0.5mmの暗緑灰色の軟質フィルム状粘土が挟在し、連続性・直線性が良い。	129.84	129.91		
390	129.85	129.91	Hj 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5m/mに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。色調はオリーブ灰色をおびた灰白(7.5Y7/1)厚さ25~35m/m	129.85	129.91	Hj 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。φ2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は他のHjに比べ多い。全体的に「粘土質岩片状」を呈する。色調はオリーブ灰色を帯びた灰白色(7.5Y7/1)厚さ25~35mm 軟質。下位の健岩部との境界が漸移的で直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
391	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Bランク	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Cランク	129.91	130.57	(コアの硬さ欄)Cランク	-
392	129.91	130.57	CL 岩片は硬硬であるが高角度割れ目、仰着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体を示す。割れ目だけで薄く砂状化するものがある。	129.91	130.57	CL 岩片は硬硬であるが高角度割れ目、仰着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体である。割れ目沿いで薄く砂状化するものがある。	129.91	130.57	129.91~130.57m:CL 岩片は硬硬であるが、高角度割れ目や仰着割れ目が1~2cm間隔で分布し、片状化する。割れ目沿いで薄く砂状化するものがある。	-
393	130.57	131.27	CM 白い筋状の仰着割れ目が多いが密度が高くハンマーの強打で分離・細片化しない。	130.57	131.51	CM 白い筋状の仰着割れ目が多いが密度が高くハンマーの強打で分離・細片化しない。	130.57	131.51	130.57~131.51m:CM 白い筋状の仰着割れ目が多いが、密度が高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-
394	130.75	130.90	幅0.5~5m/m白色方解石が脈状に分布。	130.75	130.90	幅0.5~5mm白色方解石が脈状に分布。	130.75	130.90	130.75~130.90m:幅0.5~5mmの白色方解石が脈状に分布する。	-
395	131.27	132.41	CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色の筋状割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が点在。全体が緑泥石化の鉱物学的変質を受けるが軟化~粘土化など劣化はない。	131.51	132.41	CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色の筋状割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石斑点が点在。全体が緑泥石化の鉱物学的変質を受けるが軟化~粘土化など劣化はない。	131.51	132.41	131.51~132.41m:CH 堅硬・塊状でほぼ新鮮。白色筋状の仰着割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。全体が緑泥石化の劣化を受けるが、軟化~粘土化など劣化はない。	-
396	131.27	131.51	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	131.27	131.51	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	131.27	131.51	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	-
397	132.41	134.33	CM 岩片は硬硬であるが一部で密度の低い仰着割れ目が多くφ30m/m前後に分離・細片化する部分もある。 ほぼ未風化・未変質で下部を除き割れ目挟在物は分布しない。	132.41	134.33	CM 岩片は硬硬であるが一部で密度の低い潜在割れ目が多くφ30m/m前後に分離・細片化する部分もある。 ほぼ未風化・未変質で下部を除き割れ目挟在物は分布しない。	132.41	134.33	132.41~134.33m:CM 岩片は硬硬であるが、一部で密度の低い潜在割れ目が多く、径30mm前後に分離・細片化する部分もある。ほぼ未風化・未変質で下部を除き割れ目に挟在物は分布しない。	-
398	133.00	133.60	133.00~133.60m間は仰着割れ目ぞいにφ30m/m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。	132.76	133.60	132.76~133.60m間は仰着割れ目ぞいにφ30mm前後に分離し易いが砂や粘土は挟まれない。	132.76	133.60	132.76~133.60m:仰着割れ目ぞいに径30mm前後に分離し易いが、砂や粘土は挟まれない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
399	133.39	133.85	133.39	133.85	133.39	133.85	133.39	133.85	133.39~133.85m: 径2~3mmの暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色化(明オリーブ灰)する。区間全体が緑泥石化している。
400	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	134.35	70°~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m/m緑泥石粘土とその上盤に厚さ15m/mのφ5~10m/m岩片をはさむ。
401	134.33	139.66	134.33	136.33	134.33	136.33	134.33	136.33	CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆ着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。
402	134.33	136.33	134.33	136.33	134.33	136.33	134.33	136.33	(コアの形状欄) IIIランク (岩級区分欄) CH
403	134.56	134.70	134.56	134.70	134.56	134.70	134.56	134.70	134.56~134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリーブ灰)する。
404	134.85	-	134.85	-	134.85	-	134.85	-	134.85m以深では処々にφ10m/m前後で橙色の長石が晶出する。
405	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	135.76	80°割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。
406	136.09	136.56	136.09	136.56	136.09	136.56	136.09	136.56	136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1~2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。
407	137.52	137.62	137.52	137.62	137.52	137.62	137.52	137.62	晶洞中に石英、橙色の長石、緑泥石などが晶出している。
408	138.35	138.50	138.35	138.50	138.35	138.50	138.35	138.50	ゆ着割れ目ぞいに開口割れ目化している。
409	139.02	139.21	-	-	-	-	139.02	139.21	139.02~139.21m: 緑泥石により緑灰色化する。
410	139.37	139.37	139.37	139.37	139.37	139.37	139.37	139.37	70°厚さ2~3m/m脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1mmと微細な黄鉄鉱も点在する。
411	139.66	139.96	139.66	139.96	139.66	139.96	139.66	139.96	CM 割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。
412	139.66	139.96	139.66	139.96	139.66	139.96	139.66	139.96	(岩級区分欄) CM
413	139.96	140.39	-	-	-	-	139.96	140.39	139.96~140.39m: CH
414	139.96	140.00	139.96	140.00	139.96	140.00	139.96	140.00	(コアの形状欄) IIIランク
415	140.13	140.13	140.13	140.13	140.13	140.13	140.13	140.13	65°割れ目ぞいの一部が細片化するが、軟質化など劣化はない。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
416	140.39	140.61	CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土ははさまない。	140.39	140.61	CM 70° 割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土は挟ま ない 。	140.39	140.61	140.39~140.61m: CM 70° の割れ目ぞいに一部片状化する。砂や粘土は挟ま ない 。	-
417	140.39	140.61	(岩級区分欄)CM	140.39	140.61	(岩級区分欄)CH	140.39	140.61	(岩級区分欄)CHに含める	-
418	140.61	141.97	CH 堅硬・塊状 一部で仲着割れ目が多いが密着度が高く周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-	-	-	140.61	141.97	140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状。一部で仲着割れ目が多いが、密着度が高く、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	-
419	141.40	142.00	φ20m/m前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	141.40	142.00	φ20mm前後のまだら模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	141.40	142.00	141.40~142.00m: 径20mm前後の斑模様状に緑泥石化した淡緑灰色部が分布する。	-
420	141.70	141.70	141.70m付近で色調が少し変化する。	141.70	141.70	141.70m付近で色調が少し変化する。	-	-	-	・色調欄から読み取れるため記載しない
421	141.97	147.08	CM やや割れ目が多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈する仲着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。	141.97	147.08	CM やや割れ目が多いが岩片は堅硬。 白色の筋状を呈する仲着割れ目が多いが、多くが密着度が高い。 一部では開口割れ目化している。	141.97	147.08	141.97~147.08m: CM 割れ目はやや多いが、岩片は堅硬。白色筋状の仲着割れ目が多いが、密着度が高い。一部で開口割れ目化する。	-
422	142.32	142.43	割れ目が交差しφ20~50m/m程度に岩片化しているが砂や粘土ははさまない。	142.32	142.43	50° 程度の割れ目が交差しφ20~50mm程度に岩片化しているが砂や粘土は挟ま ない 。	142.32	142.43	142.32~142.43m: 50° 程度の割れ目が交差し、径20~50mm程度に岩片化するが、砂や粘土は挟ま ない 。	-
423	142.70	142.76	緑泥石化で淡緑灰色を呈する。	-	-	-	142.70	142.76	142.70~142.76m: 緑泥石により淡緑灰色を呈する。	-
424	143.48	144.50	φ3~5m/mの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出。かり長石の一部は仲着割れ目ぞいに50~60° の配列性を示す部分もある。仲着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。	143.48	144.50	φ3~5mmの橙色のかり長石斑晶が上下位よりも多く晶出。かり長石の一部は仲着割れ目ぞいに50~60° の配列性を示す部分もある。仲着割れ目形成時に(流動を伴って)再配列した可能性がある。	143.48	144.50	143.48~144.50m: 径3~5mmの橙色のかり長石の斑晶が上下位よりも多く晶出する。	-
425	143.80	144.00	割れ目間隔20~70m/mで45° 仲着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。	143.80	144.00	割れ目間隔20~70mmで45° 仲着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。	143.80	144.00	143.80~144.00m: 割れ目間隔20~70mmで45° の仲着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化する。	-
426	144.61	144.68	40~55° の仲着割れ目が密集する。 多くが開口化し易い。	144.08	145.44	40~60° の仲着割れ目が密集する。 多くが開口化し易い。	144.08	145.44	144.08~145.44m: 40~60° の仲着割れ目が密集する。多くが開口化し易い。	-
427	145.37	145.37	50° 割れ目ぞいに厚さ15m/mがφ2~10m/mに細片化するが岩片は硬質。 砂や粘土ははさまない。	145.37	145.37	50° 割れ目ぞいに厚さ15mmがφ2~10mmに細片化するが岩片は硬質。 砂や粘土は挟ま ない 。	145.37	145.37	145.37m: 50° 割れ目ぞいに幅15mmが径2~10mmに細片化するが、岩片は硬質である。砂や粘土は挟ま ない 。	-
428	-	-	-	145.45	145.90	145.45m付近、145.90m付近は、60~80° の割れ目が発達している。	145.45	145.90	145.45m付近、145.90m付近は、60~80° の割れ目が発達する。	-
429	145.88	145.88	70° 仲着割れ目ぞいに厚さ約10m/mで緑泥石化し緑灰色を呈する。	145.88	145.88	70° 仲着割れ目ぞいに厚さ約10mmで緑泥石化し緑灰色を呈する。	145.00	145.00	145.88m: 70° の仲着割れ目ぞいに幅約10mmで緑泥石により緑灰色を呈する。	-
430	146.56	147.08	60~70° の仲着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	146.56	147.08	60~70° の仲着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化している。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	146.56	147.08	146.56~147.08m: 60~70° の仲着割れ目ぞいに分離し開口割れ目化する。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で挟在物は分布しない。	-